

#住むなら泉区 Izumi*Kurashi

い ず み く ら し

区民インタビュー

vol.01

子育て編

温かい人々と
豊かな自然に
恵まれた地域で
ストレスフリーな
子育て

横浜市泉区は、みなとみらい、江ノ島・鎌倉方面にもお出かけしやすく、都内にも電車で1時間以内。遊びにも生活にも困らない閑静な郊外住宅地です。

今でも古き良きコミュニティが残り、地域行事が活発。地域で子どもを育てる価値観がごく自然に根付いています。

休日は、さまざまな方面に遊びに出られる一方で、近所を家族でお散歩するだけでも楽しい時間。自然が多い街並みは、新しい発見にあふれ、花の香りに季節を感じることも。

今回は、そんな豊かな環境の中でのびのびと子育てをしている区民の方2家族にインタビューをしました。

足利さんファミリー



家族構成 ご夫婦(浩章さん、治美さん)、お子様1人(2歳)
居住エリア 立場駅周辺

居住歴
3年

夫婦共働きで2歳の男の子を育てる 足利さんファミリー

横浜市営地下鉄ブルーライン「立場駅」から徒歩7分。お庭のある一軒家に暮らす足利さんファミリーは、季節を感じながら協力して子育てを楽しんでいます。

新居を選ぶにあたっては、夫婦共に実家が駅までバス通いの距離にあったため「駅から歩ける場所がいいな」と、ずっと思っていたそう。お子さんが家の中でパタパタしても気を遣わず、お庭で遊べる一軒家が理想的でした。「立場駅は駅前に大型スーパーがあり、ファミレスや個人商店も一通りそろっています。生活に便利でありながら、閑静な雰囲気が魅力でした」。

互いの実家にもバスで1本、または車で約15分。お子さんが熱を出したときなどには、ご両親が助けてくれるそうです。

休日はちょこっとお出かけ

みなとみらいや都心にもアクセスがしやすい泉区。ちょこっと足を伸ばせば、水族館や動物園、大型ショッピングモールなどにも行くことができます。電車好きなお子さんと、車窓からの景色を眺める電車のお出かけも楽しい時間。「その日の気分や子どもの成長に合わせて、お出かけ先を選ぶことができます」。

散歩道に、新しい発見と出会いがいっぱい！

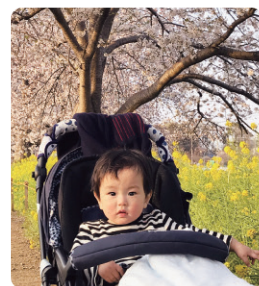
足利さんの自宅から歩いて約20分の相鉄いずみ野線「弥生台駅」周辺は、お気に入りの散歩コース。「オシャレなパン屋さんやパティスリー、フレンチレストランなどがあり、お散歩帰りにケーキを買って帰ったり、クロワッサンを食べ比べしたり。子どもがもう少し大きくなったらフレンチレストランにも行きたいな」。



お子さんのお気に入り、相鉄いずみ野線「いずみ中央駅」からすぐの泉消防署。「消防士さんたちが気さくに声をかけてくれるんです」。自宅の周辺は坂道が少ないため、小さなお子さんと一緒に散歩しやすいのだとか。

季節を感じながら子育て

自然が多い泉区では、季節を感じながら子育てをすることができます。特に、いずみ中央駅前の「地蔵原の水辺」がおすすめのこと。春には桜並木、夏には水遊び、秋には紅葉を楽しむことができます。近くにある「和泉遊水地」では『鯉のぼり大会』も春の風物詩。鯉のぼりの大群が、空を泳ぐ姿は圧巻！



地域では神社のお祭りや、地区対抗の運動会も開催され、保育園では農体験も行われるなど、四季折々の豊かな体験ができるのも魅力です。

泉区は、保育施設が充実！

足利さんがお住まいの地域では、徒歩約15分圏内に保育施設が6〜7か所と充実しています。第一希望ではなかったものの、足利さんのお子さんも入ることができました。ご近所でも同年代のお子さんが多いそうですが「みんなどこかの園には入っていますね」とのこと。地域の公園には親子連れがたくさん見られ、子育て世帯は多いようですが、比較的保育施設に入りやすいのは、共働き夫婦には嬉しいポイントですね。

足利さんからの
メッセージ

立場駅周辺は道が平たんなのでベビーカーが押しやすく、乳幼児がいる世帯にもおすすめです。公園にも親子がいっぱい！自転車に乗ったり、ボール遊びをしたり、のびのび遊ぶことができますよ。

水村さんファミリー



家族構成 ご夫婦(豪さん、三奈さん)、お子様5人(3~15歳)
居住エリア 上飯田地区

居住歴
11年
5か月

3歳から高校生まで！ 4男1女を育てる水村さんファミリー

「子どもの頃は、野原をかけまわったり、木登りをしたり。そういう遊びがすごく好きだったんですよ」。そう話す豪さんは、横浜市泉区育ち。横浜市内や都内に住んだこともあるそうですが「やっぱり泉区の方が落ち着く」と10年前に戻ってきました。「当時、住んでいたアパートが狭くて2階だったので、子どもの足音も気になっちゃって。三男を授かったことをきっかけに、一軒家への引っ越しを考えました」。何軒か見て回った結果、自然の中で快適に暮らせる今のご自宅を見つけられました。「今思えば、泉区以外の選択肢は考えられませんか」。

心地よい地域の一体感

水村家が住む上飯田町は、住民同士の交流が活発な地域で、子どもと保護者が活動する「子ども会」も続いています。「町内会の班長をやらせてもらったのをきっかけに、地域の方々と知り合いました。みんなでワイワイお祭りの準備をしたり、消防団に入ってみたり。やってみると、楽しかったんですよ」。

地域の運動会も盛り上がる！と、夫婦で口をそろえます。「地区対抗戦で、みんなでワーッと応援するんです。主人はリレーにも出ちゃったりして」「僕は団体競技をずっとやってきたので、部活みたいな地域の一体感が好きなんですよ」。地域住民の交流が活発とはいえ、プライベートは適度な距離感が保たれているそうです。

「歌舞伎」で培われる度胸

水村家定番の習い事は、なんと歌舞伎。泉区では、伝統文化『横浜いずみ歌舞伎』が代々受け継がれています。独特のせりふ回しが特徴的な



歌舞伎は、子どもたちだけで覚えるのは難しいそうで、お母さんも一緒になって稽古に励みます。「本番の公演は本格的な舞台でやってくださるから、夫婦で号泣しちゃいました」「舞台上で度胸が付くのか、わが子たちは人前で何かをすることにあまり抵抗がなくなりました。予想外の効果でした」。

「子どもみこし」など子どもが主役の地域イベントも

上飯田町では、地域で子どもを温かく見守る価値観が根付いています。「『子どもみこし』と呼ばれる行事では、子どもたちがおみこしをかついで老人ホームなどを回り、みなさんを元気づけるんです」。お正月を過ぎたら『どんど焼き』も楽しみな行事。「手作りのお団子を枝に刺して、正月飾りやお札を燃やす焚火で焼きます」。こうした行事には、学校の先生もよく顔を出してくれるそう。



放課後は、子どもたちが近所の神社に集まり、一緒に遊ぶことも多いんだとか。「親同士の变な見栄の張り合いもなく、自分軸を大切にしながら子育てをすることができます」。

富士山の雪化粧で知る冬の訪れ

泉区には、富士山が雄大かつ、きれいに見える場所が多く、関東の富士見百景に選ばれたところもあります。いつ見ても、何年経っても、富士山の姿は特別。「近くのスーパーの屋上からも、夕焼けの富士山がとってもきれいに見えて。雪がてっぺんにかかってくると、ああ冬が来るねって」。



水村家の暮らしの中には、当たり前のように富士山の姿があるようです。

水村さんからのメッセージ

温かい人情の中で、自分たちらしい子育てができます。子どもたちも安心して過ごすことができ、すくすく成長しています。みなとみらいや都内にも行こうと思えば近いし、でものんびり過ごせるので、住みやすいなあと思います。

横浜市「泉区」は

保育施設等の
入りやすさが **市内 No.1**

豊かな教育環境

将来の選択肢が広がる！

区内の保育施設・幼稚園等は、55か所

伝統文化の伝承、農業体験、地産地消の食育などの取組

区内や近隣には9つの大学が点在

※令和元年度保育所等利用待機児童数より算出

インタビューのフルバージョンはwebで順次公開

泉区で暮らす魅力を発信中！

いずみくらし



泉区公式
インスタグラムで
情報発信中！

